

### ①分散アーキテクチャについて

これまでのデータベースソリューションでは、自律分散環境を構築することは難しい。例えば、工場における情報処理はデータフロー型が適しており、その対応はデータベースソリューションではないほうが良いという認識を持つことが重要。一方で、同時アクセスの多い場合、データベースソリューションが良い場所もあるので情報がどのように流れるのか、データ構造も考慮してハイブリッドな環境も含めて検討することが必要。

外資も含め、インターネット企業はRDBをつかっているが、性能を要求されるところは違う構造である。受発注などがあるマイナンバーなどはRDBでは厳しい。RDBはコストをかけて、性能を良くすることもできるが、性能を上げてシステムは早くできるが登録されたデータ構造は、活用しにくい形で登録されていてもそのまま残る。そこがボトルネックになることもある。Googleのように内製をして作り上げていけば、いいものができる。

責任分界点は人がプログラミングをしている状態では良かったが、AIの時代は切り分けが難しいので、分界点そのものではなく保険などについて議論することが有用ではないか。

### ②技術開発について

お金で買えないテクノロジーと戦う時代がきたと思う。GoogleやYahooもHadoopのクラスタを作り、それをオープン化しているがそのプロダクトを買うことはできない。いろんなトランザクションがある中でそのようなコア技術がマーケットに出てこない中で、他事業者はどのように戦っていくのかがとても重要。

技術開発においては、オープンアーキテクチャは最低限必要かつ、コンソーシアムのインナーグループの参画を推進していくことが重要。